

北海道北見北斗高等学校

地域の水環境を知り、市民に水環境保全をよびかける

— 生徒の主体性を活かした環境教育プログラムの構築 —

水環境保全を介した地域連携

常呂川にプラスの恩返しを

オホーツク海に注ぐ常呂川（ところがわ）は北海道北見市の利水の要だ。道立北見北斗高等学校サイエンスクラブは、そんな常呂川の水環境保全のため、水質調査やゴミ拾いなどを行ってきた。なかでも中核となるイベントは、市民を対象としたシンポジウム「水ミーティング」だ。

「ゴミ拾いではマイナスがゼロになるだけ。お世話になっている常呂川にプラスの恩返しをするため、地域の人たちに水環境の問題を知ってほしかった」と動機を語るのは、3年生の高橋音羽さんだ。3年目となる2019年*は、「親子を巻き込む」ことを狙って、水環境についての絵本作りを企画した。この企画は、市内の絵本作家に高橋さんが自ら連絡を取り、助言を得ながら立案したものだ。

*2019年度の「水ミーティング」は7月14日に開催予定。



「水ミーティング」を主催するサイエンスクラブ内の組織「GAP（グローバル・アクション・プロジェクト）」のメンバー。



春の河川調査（底生昆虫の調査）



小野彩花さん制作の写真集とサイエンスクラブが発行する啓発冊子「トコロベツ」



●実施担当

名苗顕治 教諭

●活動のモットー

生徒がやりたいことを実現するための伴走者でありたい。また、年齢や立場などの壁は、意外と簡単に取り払えるということに気づいてもらいたい。

学校概要



「質実剛健」「文武両道」の建学精神を受け継ぐ伝統校。平成29年度からスーパー・サイエンス・ハイスクールに指定されている。

設立：1922年
生徒数：706人
所在地：北海道北見市北斗町1-1



春の河川調査

期待した以上の主体性

PR面では、市の「地域おこし協力隊」の助言でポスターをコンビニや公民館などに貼らせてもらってきたが、2年生の栄浪健人さんは「若い人にも来てもらうため、今年はカラオケボックスなどにも貼ってもらいたい」と意欲的だ。

このほか、カメラ好きの2年生小野彩花さんは、啓発活動の一環として常呂川を中心とした自然の写真集を制作。図書館などに置いてもらうことを予定している。また、昨年の水ミーティングで知り合った林野庁職員の計らいで常呂川流域の視察が実現するなど、生徒たちが主導する地域連携は広がる一方だ。

顧問の名苗顕治教諭は「高校生が主体的に動けば、行政など地域を巻き込んだ活動ができる」と期待していましたが、ここまでとは……とうれしい誤算を隠さない。今年度で卒業する高橋さんは「地域連携の輪をもっと広げてほしい」と後輩への思いを語っていた。

（令和元年度個別助成）

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索